

第5期 都筑区地域福祉保健計画

2026年度(令和8年度)～2030年度(令和12年度)

つづき あい



都筑区
マスコットキャラクター
「つづき あい」



都筑区地域福祉保健計画
キャラクター
「つづちゃん」

横浜市都筑区役所

社会福祉法人 横浜市都筑区社会福祉協議会

都筑区内地域ケアプラザ(加賀原、葛が谷、新栄、都田、中川、東山田)

概要版、やさしい概要版、英語版(English ver.)もあります▶



第5期 都筑区地域福祉保健計画策定にあたって



村田会長(左)、佐々田区長(右)

「都筑区地域福祉保健計画『つづき あい』」が、区民の皆さまをはじめ、関係機関・団体の方々に多大なご協力をいただき策定されました。地域をより良くしていきたいという思いが、この計画に結実したことを心より感謝申し上げます。

第5期計画では、「誰もが安心して自分らしく健やかに暮らすことのできる地域」の理念のもと、都筑区に住まう方、学ぶ方、活動する方など、多くの皆さまが地域の課題を出し合い、話し合いを重ねたことで、実効性のある計画になったと実感しています。

今後は、福祉・保健等関係する分野の皆さまと一体となり、地域共生社会の実現に向け、一人ひとりの多様性を尊重しつつ、身近な地域のつながり・支えあいが更に推進されるよう、地域に関わる方と同じ方向を向きながら、本計画に掲げた目標・取組を着実に取り組んでまいります。

今後とも、どうぞ皆さまのご支援・ご協力を賜りますよう、重ねてよろしくお願ひ申し上げます。

この度、令和8年度から5か年を計画期間とする第5期計画を策定しました。策定にあたり、多くの皆さまにご協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

区制32年目となる都筑区。この間にまちは大きく発展し、多くの子育て世代が集まる人気のまちとなりました。現在も15歳未満の人口比率が18区で一番高い、子どもの多い区となっていますが、その都筑区も10年後には横浜市全体の高齢化率の平均を超える見込みです。いわゆる「2040年問題」を見据え、地域での支えあいはますます重要になります。

デジタルツールの発展により、多様なつながり方が急速に広がっています。そのような時代の中であっても、身近な近所でのつながりは安心を生み、暮らしを支える力となります。また、子どもたちを地域で見守り、育み、誰もが自分らしく暮らせるインクルーシブな地域づくりは、未来の安心を守るカギです。

本計画は、都筑区に関わる多くの皆さまから貴重なご意見をいただき、ともに作り上げたものです。これからも皆さまと力を合わせ、住みたい、住み続けたい都筑区を目指して、職員一丸となって取り組んでまいります。

社会福祉法人 横浜市都筑区社会福祉協議会

会長 **村田輝雄**

都筑区長 **佐々田賢一**

目次

CONTENTS

わたしたちの目指すまち	1
第1章 都筑区地域福祉保健計画「つづきあい」について	3
1 都筑区地域福祉保健計画「つづきあい」とは	3
2 計画の対象者	3
3 「つづきあい」策定の趣旨	3
4 計画の構成	4
5 計画期間	4
6 SDGs（持続可能な開発目標）の視点	4
7 各機関の機能	5
第2章 第5期都筑区地域福祉保健計画「つづきあい」の基本的な考え方	6
1 都筑区の特徴	6
2 第4期計画の振り返り	7
第3章 第5期都筑区地域福祉保健計画「つづきあい」区計画	9
1 計画の全体像	9
2 第5期計画の考え方と目指す姿・推進に向けた取組	12
目指す姿1 であい	13
目指す姿2 ささえあい	15
目指す姿3 わかちあい	17
第4章 区計画の推進と振り返り	19
1 推進	19
2 進捗状況の確認・振り返り	19
第5章 地区別計画の推進と振り返り	23
1 地区別計画とは	23
2 地区別計画の圏域	23
3 地域活動が、暮らしやすいまちにつながるしくみ	24
4 計画を進めるサイクル	25
5 計画策定の経過	26
6 サポート体制	26
第6章 計画策定の経過と背景	27
1 統計データ	27
2 関係者・関係団体へのヒアリング	32
3 都筑区地域福祉保健計画推進委員会	33
4 都筑区内15地区での話し合い（地域懇談会等）で出た意見	33
5 区民意見募集	34
参考	35

わたしたちの目

やさしい言葉だとみんなが分かっていいね



みんなでやると長続きする



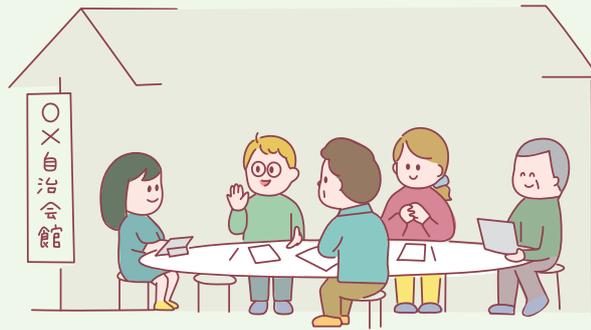
最近引っ越して来たんです

困った
い
して

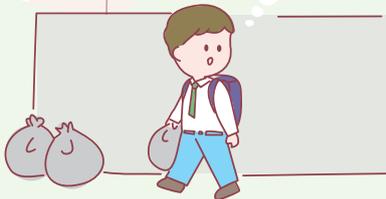


素敵な作品だね

自分の趣味が
活かせて嬉しい



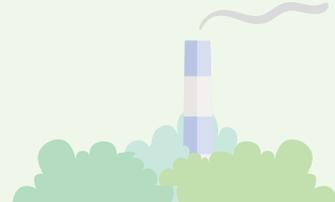
最近顔を見ていない
心配だな



見守ってくれる人がいると心強い



みんなで食べる
ご飯はおいしい



まち 指す都筑区

このイラストは、本計画「つづき あい」で目指す、みんなで作る都筑区の姿をイメージしています。子どもたちや区民意見募集等でいただいたアイデアをもとに作成しました。あなたの暮らしと重なるところはありますか？

ことがあったら
いつでも相談
ください



何かお手伝いしましょうか



のんびり1人で
過ごす時間も大切

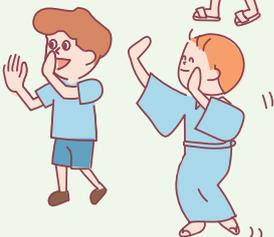


助かるよ。
分のことは
できるだけ
分でやるよ

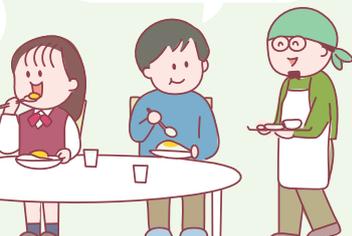
重たいものは
持ちますよ



農業を通じて
つながりが広がって
いくといいね



話ができる人がいると
ほっとする



ヘルプマーク：「援助や配慮が必要なことを周囲に知らせるための目印」です。

第1章 都筑区地域福祉保健

1 都筑区地域福祉保健計画「つづき あい」とは

誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域を目指し、地域の皆さん、活動する団体や組織、区役所・区社協・地域ケアプラザが、地域の課題解決に向けて協働して策定・推進する計画です。

都筑区では、地域の皆さんに親しまれるよう、計画の愛称を「つづき あい」としています。

2 計画の対象者

都筑区で生活している人、関わるすべての人が対象です。

それぞれの立場でできることを実践しながら、みんなで進めていきます。



3 「つづき あい」策定の趣旨

計画の策定・推進を通じて、地域の皆さん一人ひとりと、活動する団体や組織、区役所・区社協・地域ケアプラザが都筑区の現状と課題を明らかにするとともに、より良い地域づくりに向けた目標を共有します。そうすることで、みんなが同じ方向を向き、地域の課題解決に取り組むことができます。

- 地域福祉保健の現状や課題を明らかにする 「〇〇で困っている人が増えているだね」
- より良い地域づくりに向けた目標や取組を共有する 「みんなで同じ方向に向かっていこう」
- 強化したい課題や不足している取組を検討・実施する 「どうしたらこの課題を解決できるかな」



立場や団体によって見えている状況は違うけど、「地域をより良く」という想いは共通だね。

計画「つづきあい」について

4 計画の構成

都筑区地域福祉保健計画は、「区計画」及び「地区別計画」で構成されています。



・社会福祉法第107条に、「市町村地域福祉計画」の策定及び公表が規定されています。

詳細は、35ページ参照

・横浜市地域福祉保健計画については、横浜市健康福祉局のホームページをご参照ください。

(<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryō-fukushi/fukushi-kaigo/chikifukushi/hokenkeikaku/chifuku-keikaku-5/shikeikaku-5-pu.html>) ▶



5 計画期間

2026年度（令和8年度）から2030年度（令和12年度）までの5年間です。

2006年度～ 2010年度	2011年度～ 2015年度	2016年度～ 2020年度	2021年度～ 2025年度	2026年度～ 2030年度
第1期 都筑区 地域福祉保健計画	第2期 都筑区 地域福祉保健計画	第3期 都筑区 地域福祉保健計画	第4期 都筑区 地域福祉保健計画 (以下、第4期計画 という)	第5期 都筑区 地域福祉保健計画 (以下、第5期計画 という)

6 SDGs 持続可能な開発目標 の視点

この計画は、誰一人取り残さない社会の実現をめざし、SDGsの視点を取り入れています。地域の課題を世界の目標とつなげ、持続可能な地域づくりを進めます。本計画では17の目標のうち、主に10の目標と関連しています。

主に関連する目標



7 各機関の機能

区計画を中心となって進める、各機関の機能を説明します。

◆都筑区役所

地域福祉と保健の総合的な窓口として、地域の皆さんの暮らしを支える基盤となります。福祉や保健の部署だけでなく、すべての部署が力を合わせ、福祉保健課題に対応するまちづくりやつながりづくりを進めます。



◆都筑区社会福祉協議会（以下、区社協）

社会福祉法で「地域福祉の推進を図る」ことを目的に組織された、地域の住民や団体・施設が会員として加入している民間の福祉団体です。区社協の目的は、福祉のまちづくりを目指して地域福祉活動を進めることであるため、「自主性」と「公共性」という性格を持っています。区社協は、地域の福祉課題をみんなの課題とし、地域の人々で話し合い、解決に向かうよう取り組んでいます。



都筑区社会福祉協議会キャラクター「ゆいピー」

◆地域ケアプラザ

地域ケアプラザは、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、身近な福祉・保健の拠点として取組を行っている横浜市独自の施設です。

生活の困りごとや介護保険等に関する相談・支援のほか、健康講座や子育てサロンの開催、地域のつながりづくりや福祉・保健活動の支援、交流の場の提供等を行っています。高齢者デイサービスを実施している地域ケアプラザもあります。

「困りごとを相談したい」「地域とつながりたい」「ボランティアをしたい」「場所を借りたい」など、地域での暮らしに関するさまざまなニーズに寄り添います。



横浜市地域ケアプラザキャラクター「ケアプラくん」

地域ケアプラザ・区社協の案内地図



第2章

第5期都筑区地域福祉保健計画

「つづきあい」の基本的な考え方

1 都筑区の特徴

都筑区は、港北ニュータウン開発事業により、緑道や公園、農地等の豊かな自然環境を保全するとともに、駅前を中心に商業施設や公共施設が集約され、都市と自然が調和したまちとして発展してきました。現在は、大型商業施設での買い物等で区外から足を運ぶ人も増え、「住む」「働く」「訪れる」「交流する」など、多様なかかわり方がある区です。

人口は、区が誕生した1994年から約30年間で約2倍に増えました。現在（2025年1月1日時点）は、平均年齢が市内で3番目に若い区ですが、今後は急激に高齢化が進むことが推計され、全世代の健康づくりや地域・社会参加を通じたつながりづくりがますます重要となっています。

①人口
現在の人口は
約21万4千人。
18区中7位（2025年12月1日時点）
今後人口は減少する見込み。



②世帯
1世帯あたりの
人数が多い。
18区中1位
(2025年12月1日時点)
今後、夫婦のみ世帯が
増える見込み。



③人の動き
0～14歳、30歳以上の
転入者割合が
市平均と比べて
多い。
(2024年中)



④健康
平均寿命、
平均自立期間※
が長い。



※日常生活に介護を要しない
期間の平均

⑤高齢化
現在は、高齢化率が
18区中16位
(2025年1月1日時点)
2035年以降、
高齢化率が横浜市
平均を超える予想。



⑥経済活動
農業、工業、商業が盛ん。

- 農家戸数………18区中1位
(2020年2月1日時点)
- 製造業事業所数……18区中2位
(2021年6月1日時点)
- 商店数………18区中4位
(2021年6月1日時点)



⑦環境
自然豊かな
緑道や公園が整備
されている。



⑧交通
横浜市営地下鉄ブルーラインと
グリーンラインの2路線が走っている。
また、第三京浜道路や
横浜北線・
横浜北西線があり、
交通利便性が高い



⑨多文化共生
86か国の方が
生活している。
(2025年11月末時点)



2 第4期計画の振り返り

(1) 主な取組と成果

第4期計画では人と人との「であい ささえあい わちあい」を基本理念とし、3つの推進の柱をもとに取組を進めました。計画期間の前半は新型コロナウイルス感染症の蔓延により、地域の取組を縮小・休止せざるをえなくなることもありましたが、開催方法を工夫することで、新たな地域活動の形が生まれました。また、地域でのつながりの大切さも改めて認識されています。

推進の柱 1

であいが広まり、つながりのある地域づくり

- 多世代交流事業や自治会町内会の取組の工夫等を行うことで、あらゆる世代の人が気軽に地域と関わるきっかけが広がっています。
- お互いを知るための講座や福祉教育、交流できる場を通じて、お互いを認め合い、多様性が尊重される地域づくりが進んでいます。



自治会町内会加入促進イベント



小中学校での福祉教育

推進の柱 2

お互いにささえあい、必要な人に支援が届く仕組みづくり

- 暮らしの中でつながる機会を逃さずに情報を提供し、支援につなげる仕組みが出来ています。
- 会場や時間帯を見直すことで、相談しやすい体制が広がっています。また、手を差し伸べる人も孤立しないよう、ネットワークづくりが進められています。



水道検針員への生活困窮
関連制度の説明



地域ケアプラザで実施している
赤ちゃん会

推進の柱 3

地域における様々な主体が連携しながら、 地域がもつ力をわかちあえる地域づくり

- 新型コロナウイルス感染症の影響で停滞していた社会福祉法人との地域連携が徐々に再開しています。
- 青少年のボランティアや身近な生活の困りごとに対するボランティアの輪が広がっています。
- 住民からの声をきっかけに、民間企業と連携した取組が広がっています。



ボランティア情報を見ている様子



移動販売

(2) 第5期計画に引き継がれる課題(第5期計画のポイント)

多くの人が身近な地域活動に関心を持ち、気軽に参加できる環境づくり

- きっかけがないと地域活動に参加しにくいとの声があるため、活動に関心がある人と活動団体をつなぐコーディネート力を強化します。
- 地域活動者が少なく、負担が大きい現状があります。多様な人・団体の参入やデジタル化によって、活動が十分に継続できるような工夫を行います。



誰も取り残さない地域づくり

- 自分で困りごとを表出することが難しい人に周囲が気づき、支援機関等につなぐことができるよう、福祉保健の情報発信や見守りの目を増やしていきます。
- 孤立予防、生きがいづくりのために、日常生活の中にある居場所の継続・創出に取り組みます。



これまでを
つなぎ、
さらに広げる



多様性の尊重

- 誰もが尊重され、自分らしく生活できる環境づくりを進めます。
- 立場や背景で区切らず、お互いを知る機会や、様々な人が交流できる場を継続し、ささえあいの気持ちを育んでいきます。



様々な人や組織との協働

- 大規模商業施設や学校、NPO法人、地元企業等が数多くある都筑区の強みを活かして、福祉保健活動のすそ野を広げます。

第3章 第5期都筑区地域福祉

1 計画の全体像

基本

誰もが安心を実感しながら 健やかに住

区役所・区社協・地域ケアプラザが地

① 多くの人が気軽に参加できる
きっかけづくりを進めます。

② 地域で活動する団体や
住民同士の交流の場をつくれます。

③ 地域の身近なささえあい活動を
進めている団体を支援します。

① 日頃からのささえあいの
大切さを広めます。

② 身近な地域における
居場所づくりを推進します。

③ 適切な相談先を案内するために、
各団体が相互に役割や機能を
十分に把握します。

④ 地域ケアプラザ等、
身近な地域での相談先を引き続き周知します。

⑤ 身近な地域での健康づくり・
介護予防に取り組みます。

⑥ 福祉保健に関する情報を地域と
共有し、住民の気づきを大切に
しながら、様々な困りごとを
地域とともに解決していきます。

⑦ 分野やテーマごとのネットワークを
通じて、各種機関同士の連携や、
課題解決に取り組みます。

であ

目指す

であいが
つながる機会が

ささえあい

目指す姿2

ささえあい、
健やかに生活できる

保健計画「つづき あい」区計画

理念

み続けられるまち つづき^{あい}♡を目指して

域に関わる皆さんと取り組んでいくこと

い

姿1

広がり、
たくさんある

目指す姿3

多様性が尊重され、
その人らしく生活できる

わかちあい

④ 多くの人や団体と地域がつながりをもてるよう、
コーディネートに力を入れます

⑤ 地域活動を応援する法人・商店・企業等
との連携を進めます。

⑥ 多くの人に情報が伝わるよう、
工夫して発信します。

① 様々な人が立場や
背景を超えて交流する
場をつくれます。

② 「人はみんな違って当たり前」
を理解するための
講座や研修を開催します。

③ 自らの意思が反映された生活を
送ることができるよう支援します。

④ 誰もがやりたいことを実現でき、自分らしく活躍できる環境を整えます。

Column

皆さんの意見をお聞きました

第5期計画の策定に向けて、区民や関係者・関係団体から多くのご意見をいただきました。また、小・中学生にもヒアリングを行い、子どもたちの視点も大切にして策定を進めました。いただいた声を一部ご紹介します。

『区役所・区社協・地域ケアプラザ』だけではなく、その他の機関・団体も、様々な人が協働して取り組むことを表現できたら良い。

訪問するご家庭は、高齢者だけではないため、絵をファミリーにしてほしい。

必要な人に必要な情報がより届くような取組をしてほしい。

やさしい表現で読みやすかった。

サロンに来て、と声をかけてくれた。1回声をかけられても知らない所に行くのは勇気が要る。でも2回も声をかけてくれたから安心して参加することができている。

年齢や場所など垣根や排除は要らない。誰でも受け入れる寛容な土壌が大切。

区民意見募集

(中学生) イラストがあると、伝えたいことが分かりやすい。

(中学生) まちの情報が自分達には届きにくい。

小・中学生へのヒアリング

(中学生) 自分達の意見を反映できる場があったとても嬉しかった。

(小学生) あいさつを頑張りたい。



孤立させない地域にしたい。

立場や所属に縛られずに、知り合える場があるといい

関係機関・団体へのヒアリング

困りごとを話せる地域、困りごとを他人ごとにしないうちにしたい。

いただいたご意見は計画に反映し、推進にも活かしていきます！

単に健康づくりを進めるのではなく、人とのつながりを大切にしている。

子どもを地域で育て、見守る意識が必要。

中学生約220名への出前授業や生徒会役員との意見交換を行いました。



関係機関・団体へのヒアリングの詳細は、32ページ参照

区民意見募集の詳細は、34ページ参照

2 第5期計画の考え方と 目指す姿・推進に向けた取組

(1) 基本理念

基本理念

誰もが安心を実感しながら
健やかに住み続けられるまち
つづき^{あい}♡を目指して

「基本理念」は、計画の推進を通じて目指す、都筑区の共通の目標像です。

都筑区では、第1期から第4期まで、人と人との「**であい ささえあい わちあい**」を基本理念にしてきました。

第1期策定から20年が経とうとしている今、地域ではさまざまな取組や地域活動が進み、「**であい ささえあい わちあい**」が広がってきました。そこで、第5期計画では、この理念の先にある都筑区の姿を、より具体的に、地域の皆さんと共有することが必要であると考えました。

都筑区が、「住んでいる皆さんにとって」「社会的にも心理的にも安心を感じながら」「健やかに暮らせるまち」でありたい—その思いを込めて、第5期計画の基本理念を設定しました。

(2) 目指す姿

基本理念を達成するために、地域の具体的な「目指す姿」を整理しています。

第1期から第4期まで大切にしてきた、人と人との「**であい ささえあい わちあい**」の考え方を引継ぎながら、第5期計画では、目指す姿を3つ設定しています。

目指す姿1

であい

であいが広がり、
つながる機会がたくさんある

目指す姿2

ささえあい

ささえあい、健やかに生活できる

目指す姿3

わちあい

多様性が尊重され、
その人らしく生活できる

(3) 区役所・区社協・地域ケアプラザが 地域に関わる皆さんと取り組んでいくこと

目指す姿に近づくための取組を「区役所・区社協・地域ケアプラザが地域に関わる皆さんと取り組んでいくこと」として示しました。人と人がつながるきっかけである「**であい**」をつくり、そのうえに「**ささえあい わちあい**」ができるような人のつながりを広げていくという考え方を継承し、取組を進めていきます。

「つづき あい」の「安心」には色々な意味が込められているよ

- ◆ 社会的な「安心」：信頼できる人や地域・環境に囲まれていることで得られる安定感
- ◆ 心理的な「安心」：心配ごとがなく、気持ち落ち着いている状態

人によって「安心」の感じ方は違うんだ

だからこそ、一人ひとりの暮らしや困りごとと寄り添った取組が必要になってくるんだね



であいが広がり、 つながる機会がたくさんある

背景や課題

- 地域で活動する人の固定化や減少により、負担が増加し、活動の継続が難しくなっている場合があります。
- また、価値観やつながりの多様化で、身近な地域での人と人とのつながりが希薄化しているとの声も聞かれます。
- しかし、困りごとがあっても、自分や家族だけでは解決できない場合があります。災害等の緊急時はもとより、日常生活の中でも、共助によるささえあいが重要です。

取組の方向性

- 地域におけるささえあいの活動が今後も継続できるよう、地域で活動する団体や組織の支援に取り組みます。
- ささえあいを進める第一歩として、多くの人が身近な地域について興味や関心を持ち、地域活動へ気軽に参加できる環境づくりを進めます。
- 地域活動を行うにあたって、価値観や困りごとの変化を捉え、多様な視点を持って推進します。

区役所・区社協・地域ケアプラザが地域に関わる皆さんと取り組んでいくこと

- ① 多くの人が気軽に参加できるきっかけづくりを進めます。
- ② 地域で活動する団体や住民同士の交流の場をつくります。
- ③ 地域の身近なささえあい活動を進めている団体を支援します。
- ④ 多くの人や団体と地域がつながりをもてるよう、コーディネートに力を入れます。
- ⑤ 地域活動を応援する法人・商店・企業等との連携を進めます。
- ⑥ 多くの人に情報が伝わるよう、工夫して発信します。

あなたができそうなことは何だろう？

あなたの一歩で地域はもっと良くなる。

取組例

- ・ ボランティア講座の開催
- ・ 区民活動センターでの講座の開催
- ・ 地区社会福祉協議会への支援
- ・ ボランティアセンターの運営
- ・ 誰でも参加可能なイベントの開催
- ・ フードドライブ(※)の実施
- ・ やさしい日本語や多言語での表記
- ・ 地域ケアプラザ広報誌での情報発信
- ・ 地域のささえあい連絡会や地域懇談会の開催支援
- ・ 自治会町内会加入促進への取組実施
- ・ 各種補助金・助成金の推進
- ・ 商業施設との連携
- ・ 移動販売への協力

※フードドライブ…各家庭で使い切れない未使用食品を持ち寄り、地域の福祉施設・団体や食にお困りの方などに寄贈する活動

具体的な取組を紹介

Column

「食」でつながる多世代交流

シニアが多く活躍するNPO法人ロクマルでは、高齢者や子育て中の家庭へお手紙付きのお弁当を届ける活動や、地元の野菜を使った地域食堂の開催等、多世代交流にも力を入れています。

パン作りを通して地域活動を行う「パンじいちゃん」活動は、毎月パンづくり体験会を開催し、特に子育て世代から大人気です。子どもたちにパン作りを教えている最中、保護者の方も一緒に話を聞き質問することもあり、3世代交流の場になっています。



パン作りの様子



完成したピザ

お問い合わせ先

新栄地域ケアプラザ

☎592-5255

Column

だれでも参加できる。だれもが楽しめる。

都田地域ケアプラザでは、小さな子どもやその家族、高齢者や障害のある方など、誰でも負担なくコンサートを楽しんでいただけるよう工夫を凝らした「四季のコンサート」を開催しています。

演奏中でも自由な出入りを可能として、子どもが声を出したり動いたりしても安心して参加いただけるよう会場の半分にジョイントマットを敷いています。また、車いすにも対応できるようスペースを確保しています。多くの人が気軽に参加できるきっかけづくりを進めています。



コンサートの様子



お問い合わせ先

都田地域ケアプラザ

☎945-0076

Column

ボランティアコーディネート

都筑区社会福祉協議会では、ボランティアを必要とする人とボランティア活動をしたい人をつなぐ、コーディネートをしています。ボランティアは、イベントのお手伝いや公園の清掃、得意なことを活かした活動のほか、障害のある方の外出をサポートする付き添い（ガイドボランティア）、災害時のボランティア等多岐にわたっています。こうした活動を通じた交流は、互いに信頼し、助けあえる関係づくりのきっかけになります。



災害ボランティアセンター
シミュレーション訓練



ボランティア講座

お問い合わせ先

都筑区社会福祉協議会

☎943-4058

ささえあい、健やかに生活できる

背景や課題

- 本人自身や家族に困り感がなく、相談できることに気が付かない結果、適切な相談につながらず、様々な課題が深刻化・複雑化することがあります。
- 周囲の人が困りごとに気が付いても、1人では行動できず、抱えてしまう場合もあります。
- 1人でも健康づくり・介護予防の取組は実施できますが、つながりをつくることで、より心身の健康に効果があります。実際に、身近な活動を通じて、顔の見える関係が作られ、安心や生きがいにつながっています。

取組の方向性



- 困りごとを抱えている人自らが、相談しやすい環境づくりに取り組みます。
- 事態の深刻化を防ぐために、誰かが変化に気付き、周りの人や関係機関に早期につながるような見守り・ささえあい活動を推進します。
- 助けが必要な人も手を差し伸べる人も孤立しないような体制づくりを進めます。
- 引き続き、身近な地域でのつながりを大切に健康づくり・介護予防を推進します。

区役所・区社協・地域ケアプラザが地域に関わる皆さんと取り組んでいくこと

- ① 日頃からのささえあいの大切さを広めます。
- ② 身近な地域における居場所づくりを推進します。
- ③ 適切な相談先を案内するために、
各団体が相互に役割や機能を十分に把握します。
- ④ 地域ケアプラザ等、身近な地域での相談先を引き続き周知します。
- ⑤ 身近な地域での健康づくり・介護予防に取り組みます。
- ⑥ 福祉保健に関する情報を地域と共有し、住民の気づきを大切にしながら、様々な困りごとを地域とともに解決していきます。
- ⑦ 分野やテーマごとのネットワークを通じて、各種機関同士の連携や、課題解決に取り組みます。

あなたができそうなことは何だろう？

誰かのちよとした
困りごとには、あなたの
一言が力になるよ



取組例

- ・ 災害時要援護者支援事業の実施
- ・ 各種相談先・相談窓口の啓発
- ・ 地区社会福祉協議会への支援
- ・ 保健活動推進員や食生活等改善推進員の活動支援
- ・ 地域での見守り活動の支援
- ・ 介護予防事業の実施
- ・ こども食堂の開設・運営支援
- ・ 元気づくりステーションの運営支援
- ・ 学習支援
- ・ 子どもの支援団体連絡会の開催
- ・ 地域ケアプラザによる地域への出張相談
- ・ 子どもたちの健やかな育ちを支える地域づくり事業
- ・ 自立支援協議会(※)への参画

※自立支援協議会…障害のある方が地域で安心して生活するために、「人と人をつなぎ、地域の課題を地域の中で共有し、解決に向け協働する場」

具体的な取組を紹介

Column

身近な地域で健康づくり

医療・福祉の専門家が「地域の皆さんの健康のお手伝いをしたい」「からだに関する心配事を気軽に相談できる場所を作りたい」という気持ちから、「からだ相談会」を開催しています。体力測定、医師の話、薬剤師や理学療法士等介護保険事業所のスタッフ、東山田地域ケアプラザの職員がお困りごとの相談にのっています。一人での参加が難しい方には、事業所の車を使った送迎も実施しており参加される皆さんの笑顔があふれる会になっています。



薬剤師からの講話



健康講座



体力測定と医師の相談会

お問い合わせ先

東山田地域ケアプラザ
☎592-5975

Column

地域と子どもたちとの「ささえあい」

「おはよう食堂」は、中学校からの「朝ご飯を食べずに登校する生徒がいる」との話を耳にしたことから始まり、現在、毎月1回、ふれあいの丘地区にある富士見が丘自治会館で登校前の小・中学校の児童・生徒へ朝食を提供しています。

地域住民から食材を提供していただいたり、小・中学校の学校長も毎回様子を見に来ています。食堂を利用している児童・生徒が地域とつながったことで、夏まつりをはじめとした地域行事のお手伝いに来てくれるようになる等、子どもたちが地域で活躍するきっかけにもなっています。



開催の様子



栄養満点な朝ごはん



お問い合わせ先

葛が谷地域ケアプラザ
☎943-5951

Column

日頃の小さなささえあいが、災害時には大きな力に

福祉保健課では、災害時に誰も取り残されない地域づくりをめざし、日頃の小さなささえあいの大切さを発信しています。普段の「声をかける」「気にかける」といった行動が、いざという時に大きな力になります。ささえあいの取組は各地域で様々な形で進められています。災害時に支援を必要とする人を把握する活動や訪問、ボランティア登録、交流会等を通じて、お互いを知り、つながる機会が広がっています。



訪問の様子



交流会の様子



啓発冊子

お問い合わせ先

区役所 福祉保健課
☎948-2345

多様性が尊重され、 その人らしく生活できる

背景や課題

- 誰もが自分らしく暮らしていくためには、それぞれが優先していること・大切に思っていること等をお互いに認め合い、尊重し合える意識を高めていくことが大切です。
- 様々な立場や背景のある人に対する偏見や差別があることで、本人が生きづらさを感じたり、当たり前で暮らすことが難しくなっていたりする人がいます。



取組の方向性

- 様々な立場や背景、価値観等、単に見た目の違いだけでなく、「みんな異なる」ことをお互いが認め、自分らしく生活できたり、活躍できる機会をつくります。
- 地域全体で多様性の理解を広め、支援が必要な時に、声を上げやすい環境づくりを進めます。

区役所・区社協・地域ケアプラザが地域に関わる皆さんと取り組んでいくこと

- ① 様々な人が立場や背景を超えて交流する場をつくります。
- ② 「人はみんな違って当たり前」を理解するための講座や研修を開催します。
- ③ 自らの意思が反映された生活を送ることができるよう支援します。
- ④ 誰もがやりたいことを実現でき、自分らしく活躍できる環境を整えます。

あなたができそうなことは何だろう？



あなたらしい
答えで
いいんだよ

取組例

- ・認知症カフェの運営・継続支援
- ・農福連携(※)の取組支援
- ・障害施設の自主製品の販売活動支援
- ・多世代交流事業の実施
- ・権利擁護事業の実施
- ・防災訓練への多様な人の参加促進
- ・障害理解講座の実施
- ・認知症サポーター養成講座の実施
- ・福祉教育の推進
- ・エンディングノートの普及啓発

※農福連携…障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組

“21万4千通りの多様性”

都筑区には約21万4千人が暮らしています。
一人ひとりに違いがあって、目に見える違いも見えない違いも全てが大切です。



具体的な取組を紹介

Column

多世代交流と福祉教育～地域で子育てを支えるまちづくり～

中川エリアでは、地域全体で子育てに関わるまちづくりを大切にしています。エリアには小学校4校、中学校3校があり、若い世代も多く住んでいます。祖父母と離れて暮らす家庭が増える中、地域の老人会やシニア世代と協力し、ボッチャやモルックを楽しんだり、福祉用具に触れたり、地域の歴史を学ぶ活動を行っています。こうした多世代交流は、子どもたちのさまざまな気づきや学びの機会となり、地域の方の活躍の場にもなっています。



モルック



車いす体験とボッチャ

お問い合わせ先

中川地域ケアプラザ
☎500-9321

Column

ひと・まち・アートでつながる地域

川和アート展は、障害者施設や高齢者施設を利用している方々の作品を紹介する取組です。スタンプラリー形式で、年に1回、2週間開催されています。地域の皆さんがいろいろな施設を巡りながら、そこに集う方々の活動を知ることができるのも魅力です。人と人が自然につながり、一人ひとりの思いを大切にしたい、自分らしく暮らせる地域づくりを目指し、加賀原地域ケアプラザではこの取組に協力しています。



アート展の様子



小さなアーティストたちも作成中!

お問い合わせ先

加賀原地域ケアプラザ
☎944-4640

Column

ちがいを楽しむ、つながりを育む

Tsuzuki International Friendship (TIF)は子どもが育つ中で、誰もが安心して楽しく暮らすことを応援しているネットワークです。幼い頃に地域の場で遊び、成長してボランティアに関わり、やがて誰かの力になりたいと戻ってくる、—そんな地域での循環をつくれるように、様々な子どもたちが自分らしく成長するための支援をしています。また、年齢、性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめるイベント「DE&Iフェスティバル」等を通じて、様々な人とのつながりを感じ、心地よく暮らせる都筑区が広がることを目指しています。



DE&Iフェスティバルの様子

お問い合わせ先

都筑多文化・青少年
交流プラザ
(つづきMYプラザ)
☎914-7171

第4章

区計画の推進と振り返り

1 推進

第5期計画で掲げた基本理念・目指す姿の実現に向けて、区役所の各部署、区社協、区内地域ケアプラザが中心となって、各取組をより具体化し推進します。

例 取組1-①多くの人が気軽に参加できるきっかけづくりを進めます。

区役所各部署が
中心となる取組

区社協が
中心となる取組

地域ケアプラザが
中心となる取組

2 進捗状況の確認・振り返り

次の方法により、年度ごとに推進の進捗状況の確認をし、振り返りを行います。

(1) 振り返りの手順

区役所各部署・区社協・
区内地域ケアプラザ
による振り返り

説明

区役所・区社協・区内地域ケアプラザは、事業の進捗状況や地域主体による取組を「振り返りの道しるべ(P.21-P.22)」を参考にしながら振り返り、取組の成果等を確認します。

↓ 集約

事務局による
総合振り返り

説明

各機関での振り返りを集約し、事務局(※)で目指す姿ごとの総合的な振り返りを行います。
※区役所福祉保健課・区社協

↓ 報告

都筑区地域
福祉保健計画
推進委員会

説明

- ・福祉、保健、医療、その他各種団体の代表者や学識経験者の委員から構成される会議です。
- ・区計画や地区別計画における取組の全体を見渡し、幅広い視点で振り返ります。また、計画全体の推進・進捗確認の場として位置づけ、計画で取り組むべき内容や方針について意見交換を行います。

(2) 振り返りの時期

毎年度実施します。

(3) 振り返りの考え方

次の2つの視点で振り返りを行い、次年度の推進や次期計画策定に活かします。

● 目指す姿に近づくための取組の内容や量 (取組・アウトプット)

「どのように取組を進めたか」「どの程度取組を進めたか」

例 取組〇-〇に沿って、ケアプラザでは〇〇に取り組んだ。

● 取組による地域の変化 (成果・アウトカム)

「目指す姿にどのくらい近づいたか」

例 取組〇-〇に沿って、〇〇の取組をした結果、地域に▲▲の変化があった。

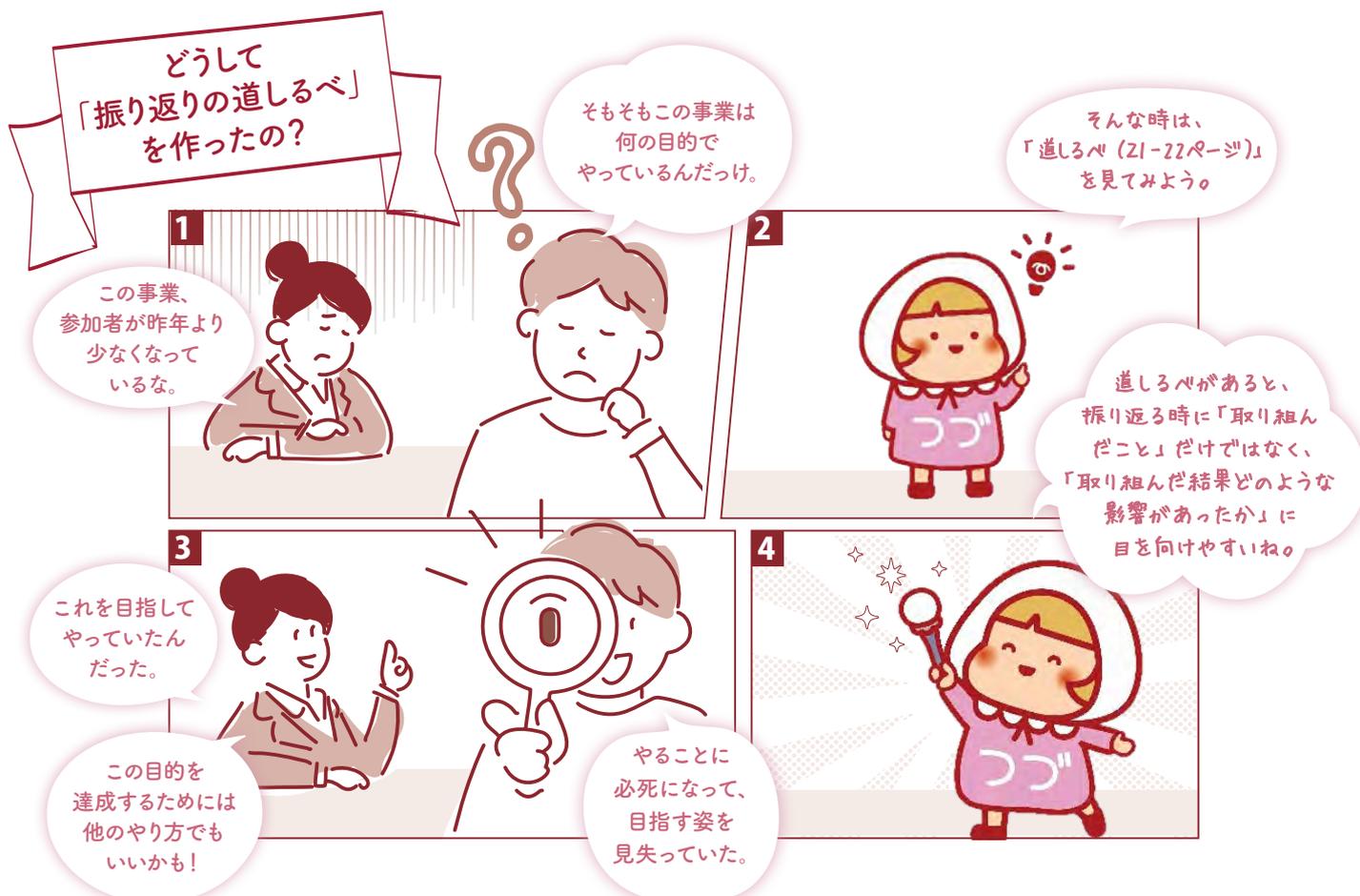
道しるべの「アウトカム」を参照しながら、
地域の変化を考えます。

(4) 「振り返りの道しるべ」

フローチャートは、次のページ(21-22ページ)参照

第5期計画では、取組が目標や目指す姿に至るまでの流れを、フローチャートの形でまとめています。

このフローチャートを振り返りの際に活用することで、計画した取組と目指す姿の関係が適切か、必要な取組が網羅されているかについて、関係者で検討・共有しやすくなります。



区役所・区社協・地域ケアプラザの

目指す姿(最終アウトカム)と各取組(アウトプット)の主な因果関係を矢印で示しています。記載して

最終アウトカム

であいが広がり、つながる機会がたくさんある

ささえあい、健や

中間アウトカム

住民の支えあいが
充実する

困りごとを抱える人が
安心して自分らしく
暮らせる

多様な主体の連携・
協働による地域課題の解決に
向けた活動が充実する

住民・
複雑・
継続

アウトカム

地域活動への参加者

地域活動に興味
関心を持ち、参加
する人や企業が増
えている

新たに活動を
始めた人数

参考指標

活動・場

様々な住民の参
加に向けて、多
様な地域活動や
参加の機会が広
がっている

地域活動検索ナビ
(都筑区)の
掲載件数

交流、住民同士・ 団体同士のつながり

住民同士の日常のつ
ながりが増える

地区社会福祉協議会
が実施している
見守り世帯数

気付き

困りごとを抱えた
人に気付く機会が
広がっている

地域ケアプラザ
への相談件数

地域での 課題解決

困りごと解決に向
けた話し合いの場
が地域に出来て
いる

地域福祉の
ネットワーク数

安

身
安
で

社会
防
止
地
域

アウトプット

1-①

多くの人が気軽に参加でき
るきっかけづくりを進めます。

地域活動への参加の
きっかけとなる講座の
開催回数

参考指標

1-②

地域で活動する団体や
住民同士の交流の場を
つくり出します。

交流の場の開催回数

1-③

地域の身近なささえあい活動
を進めている団体を
支援します。

身近な支えあい活動を
進めている団体への
運営支援・財政支援回数

1-④

多くの人や団体と地域が
つながりをもてるよう、
コーディネートに力を入れます。

コーディネート
を行った件数

1-⑤

地域活動を応援する法人・商店・
企業との連携を進めます。

企業等と
連携を行った回数

1-⑥

多くの人に情報が伝わるよう、
工夫して発信します。

電子媒体を活用した
発信回数

2-①

日頃からのささえあいの
大切さを広めます。

地域に取組を共有する
機会の回数

2-②

身近な地域における
居場所づくりを推進します。

居場所づくりの相談件数

2-③

各団体が相互に役割や機能を
十分に把握します。

ネットワーク会議の
開催回数

「振り返りの道しるべ」フローチャート

いる参考指標は、計画の推進状況を振り返るうえで、客観的な評価ができるよう一例として設定しています。

かに生活できる

多様性が尊重され、その人らしく生活できる

関係機関・団体が連携して、多様化した課題を抱えた人に、的により寄り添い、関わっている

住民が多様性を理解し、尊重しあえる

住民のつながりを通じて健康が増進される

心できる相談先

近な地域で心して相談できる場がある

適切な支援

困りごとを抱えた人が適切な支援につながっている

地域での健康づくり

つながりや交流による健康づくりを行う人が増える

違いを知る機会

様々な立場や背景、価値観の違いを知った人や機会が増える

本人が望む生活

誰もが権利を侵害されことなく、安心して生活することができる

的孤立のつながる主体の取組数

相談内容に即したサービスまたは制度に関する情報提供、関連機関の紹介等適切な紹介が出来る割合

地域活動検索ナビ(都筑区)で健康づくり・介護予防に資する活動の掲載件数

研修やイベントの参加者数

相談支援機関(区役所・基幹相談支援センター・包括支援センター)における権利擁護の取扱件数

適切な相談先を案内するために

2-④ 地域ケアプラザ等、身近な地域での相談先を引き続き周知します。

身近な地域での相談先の啓発回数

2-⑤ 身近な地域での健康づくり・介護予防に取り組みます。

地域で健康づくりを推進する人への支援回数

2-⑥ 福祉保健に関する情報を地域と共有し、住民の気づきを大切にしながら、様々な困りごとを地域とともに解決していきます。

個人の困りごとを地域課題として話し合う場の回数

2-⑦ 分野やテーマごとのネットワークを通じて、各種機関同士の連携や、課題解決に取り組みます。

ネットワーク会議の開催回数(再掲)

3-① 様々な人が立場や背景を超えて交流する場をつくりまます。

様々な人が立場や背景を超えて交流する場の開催数

3-② 「人はみんな違って当たり前」を理解するための講座や研修を開催します。

「人はみんな違って当たり前」を理解するための講座や研修の開催数

3-③ 自らの意思が反映された生活を送ることができるよう支援します。

区成年後見サポートネットの開催回数

3-④ 誰もがやりたいことを実現でき、自分らしく活躍できる環境を整えます。

区民利用施設の事業への参加者数

3 地域活動が、暮らしやすいまちにつながるしくみ

地域の中では、それぞれの目標に向かって、様々な地域活動が進められています。地域活動は「楽しさ」だけでなく、住んでいる人一人ひとりの困りごとの解決や安心感につながっています。



4 計画を進めるサイクル

地区別計画で掲げた目標に近づくために、地域の皆さんそれぞれが感じている課題を話し合い、地域に必要な取組や活動を考えていくことが大切です。話し合いの場が新しい活動を生み、今ある活動をさらに良くするきっかけとなり、地域づくりの循環をつくります。

共有 地域の課題や情報を知る

- ・地域活動の参加者が固定化しているな
- ・この取組は見守りにもなっているから、継続的にやっていきたいね
- ・こんなことで困っている人がいたよ



- ・周知を工夫したら新規参加者が来たよ
 - ・他にも困っている人がいるかも
- 取組の回数だけでなく、継続して実施できていることや、参加者の多様性が進んでいること等について、広く振り返ります。

みんなで話し合い・考える 検討

- ・やり方を変えてみよう
- ・こんな取組してみたらどうかな

- ・一人ひとりができることを取組もう！
- ・楽しんで無理なくやるのが継続のコツ。



振り返り 次につなげる

やってみる 活動

既存の会議・体制を活用しながら、継続して地区別計画の推進・進捗確認を行います。

【地区別計画冊子】



ホームページで
計画内容が
ご覧になれます



5 計画策定の経過

地区別計画の策定にあたっては、各地区での取組や地域の課題について振り返り、第5期計画期間中に目指したい目標や具体的な取組について、話し合いを進めました。

各地区で開催されている推進委員会や地域懇談会には、自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員等地域で活動する団体から様々な立場の人が参加しています。

また、各地区に共通する課題については、区計画にも反映しています。

地域懇談会等での意見交換

第4期地区別計画の推進・振り返り

- 地域の現状や課題の共有
- 第4期計画の振り返りに関する意見交換

第5期地区別計画の検討・策定

- 各地区での第5期計画における課題と課題解決に向けた目標及び取組

各地区で出た意見（抜粋）

- ・昔から住んでいる住民と転入してきた住民とのつながりを強化したい。
- ・子ども（小学生、中学生）の意見を聴きたい。
- ・地域活動へ若者にもっと参加してほしい。
- ・地域活動者や地域懇談会の参加者が固定化している。
- ・意見は色々出るが、具体的な活動の実現につながらない。



地域懇談会の様子

6 サポート体制

地区別計画の推進にあたっては、区役所、区社協、地域ケアプラザが連携した「地区別支援チーム」として、地域の話し合いの場や様々な活動を支え、応援していきます。

第6章 計画策定

各種統計データ／
都筑区区民意識調査

関係者・関係団体への
ヒアリング

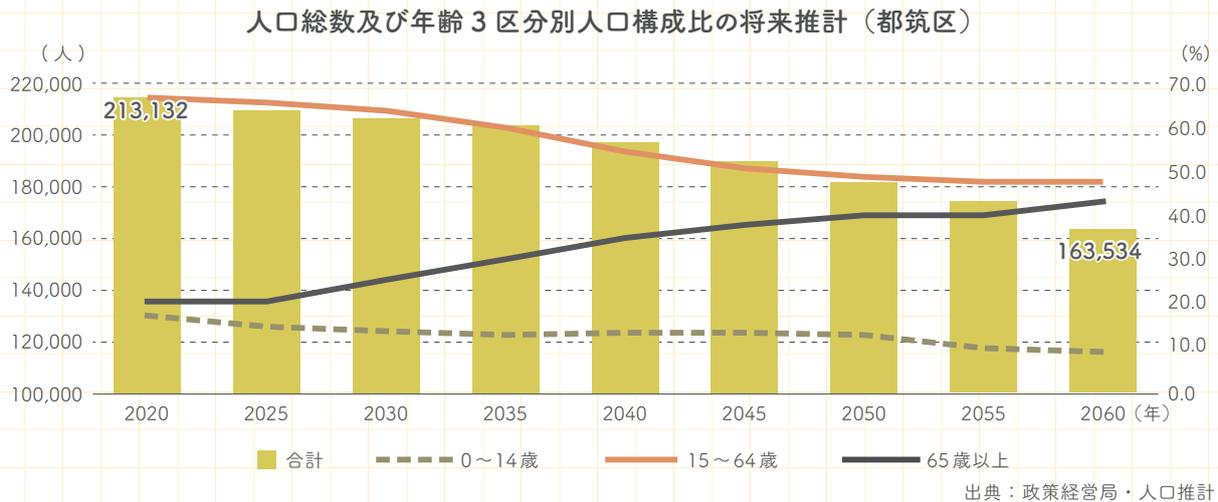
都筑区地域
計画推進

2023年度「都筑区区民意識調査」や各種福祉保健関連の「統計」、地域福祉保健活動に携わっている関係者や関係団体への「地域懇談会等の意見」、素案の「区民意見募集」をもとに策定しました。

1 統計データ

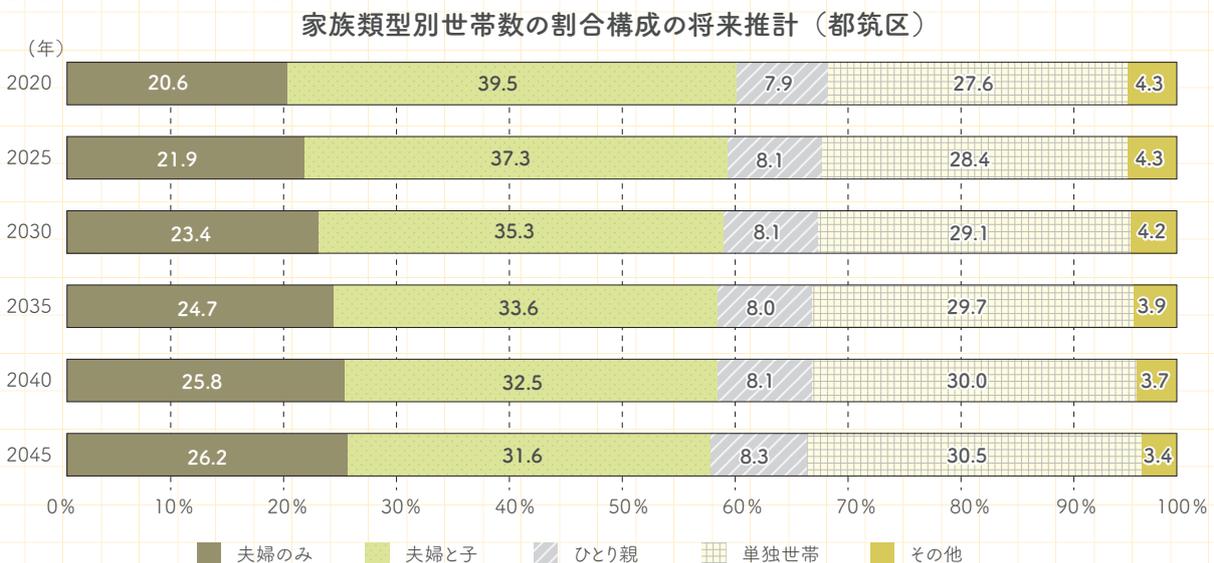
(1) 年齢3区分別人口構成比の将来推計（都筑区）

都筑区の人口は2024年にピークを迎え、それ以降減少する推計です。また、今後、高齢者人口が増加すると見込まれています。



(2) 家族類型別世帯数の割合構成の将来推計（都筑区）

都筑区の世帯数は、2025年3月31日現在、約9万3千世帯です。推計では、「夫婦のみ」や「単独世帯」の割合が今後増加すると見込まれています。



の経過と背景

福祉保健
委員会

各地区での話し合いで
出た意見

区民意見募集

「ヒアリング」、各団体の代表者や学識経験者から構成された「都筑区地域福祉保健計画推進委員会」、各地域で開催され

(3) 年齢区分別転入者割合(都筑区・横浜市)

転入者の割合において、「0～14歳」「30歳以上」の割合が横浜市と比較して高い状況です。「75歳以上」の転入者の割合も高く、いわゆる呼び寄せや施設入所による転入も多いことが推測されます。

2024年中の年齢区分別転入者割合

	0～5歳	6～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～64歳	65～74歳	75歳以上
横浜市割合	4.7	3.3	3.4	39.6	23.4	9.8	9.1	2.6	4.1
都筑区割合	7.8	4.9	2.6	29.0	25.3	11.0	9.6	3.1	6.7

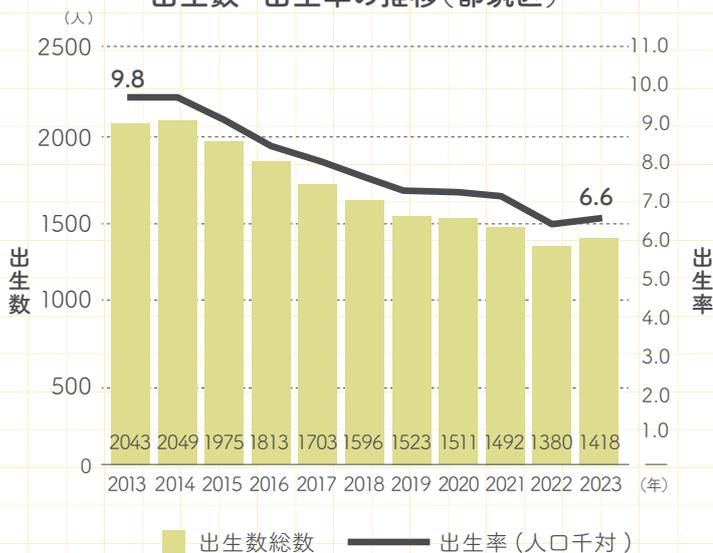
■ 横浜市割合よりも高い ■ 横浜市割合よりも低い

出典：統計情報ポータルサイト・横浜市の人口

(4) 子ども

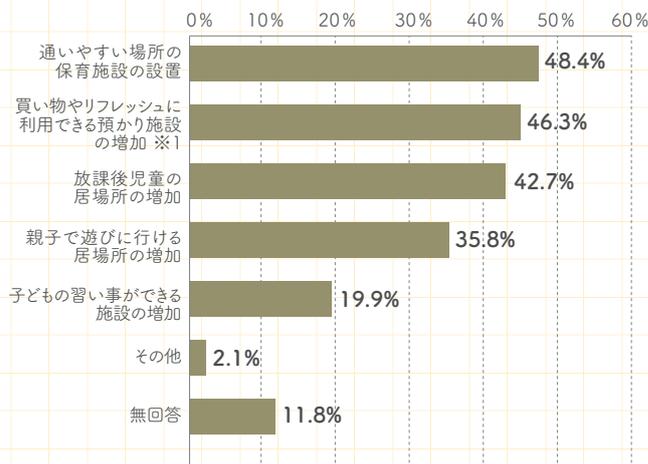
出生数、出生率(人口千対)は減少傾向で、出生率は横浜市内18区中3位です。子ども関連の居場所・施設は保育施設、預かり施設の充実の他、放課後児童の居場所へのニーズが高いことが伺えます。

出生数・出生率の推移(都筑区)



出典：横浜市統計書 第2章 人口

子どもに関する居場所・施設について、あるとよい取組(n=1,817、3つまで回答)



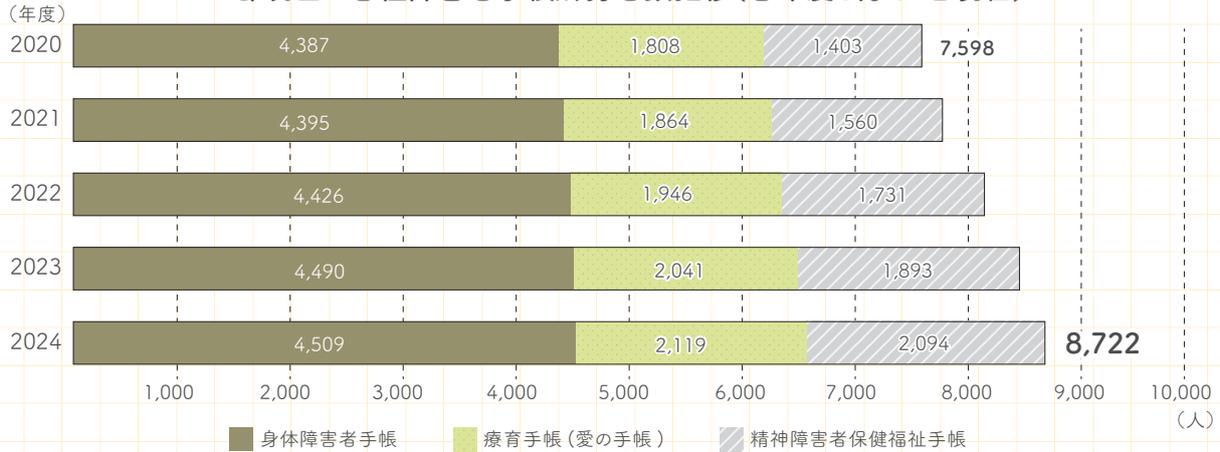
※1(一時保育・一時預かりなど)

出典：2023年度都筑区区民意識調査

(5) 障害

各種障害者手帳の所持者数は2020年度から2024年度の約5年間で1,124人増加しています。

都筑区の各種障害者手帳所持者数推移(各年度3月31日現在)



出典：横浜市統計書 第14章 社会福祉

(6) 高齢者

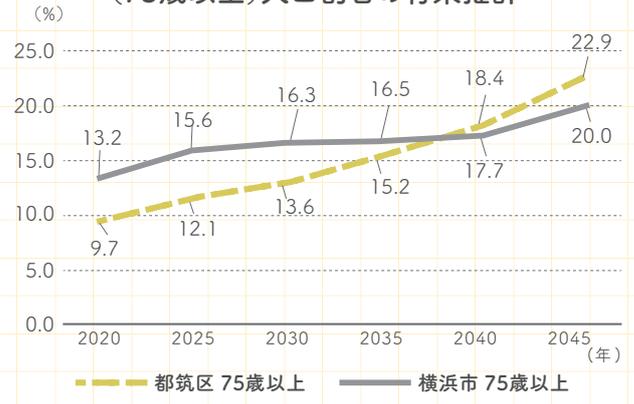
推計では、2035年頃高齢化率が横浜市平均と同程度となり、その後、上回る見込みです。また、後期高齢者人口割合も増えていく見込みです。

横浜市と都筑区の高齢化率(65歳以上)の将来推計



出典：政策経営局・人口推計

横浜市と都筑区の後期高齢者(75歳以上)人口割合の将来推計

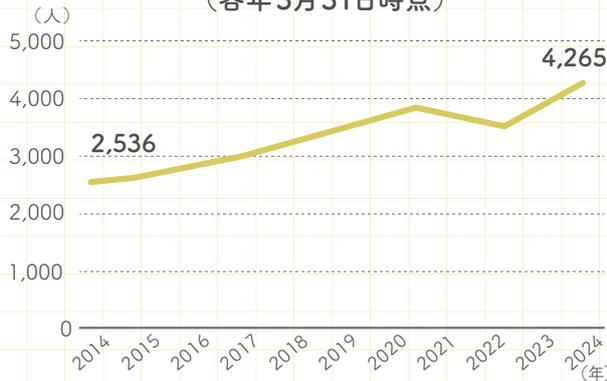


出典：政策経営局・人口推計

(7) 外国人

外国人人口は一時減少しておりましたが、現在は回復し増加傾向です。2025年11月末時点で、都筑区には80カ国以上もの国の方々が暮らしています。

都筑区の外国人人口の推移(各年3月31日時点)



出典：統計情報ポータルサイト・住民基本台帳

横浜市と都筑区の外国人人口上位5か国とその割合(2025年11月末時点)

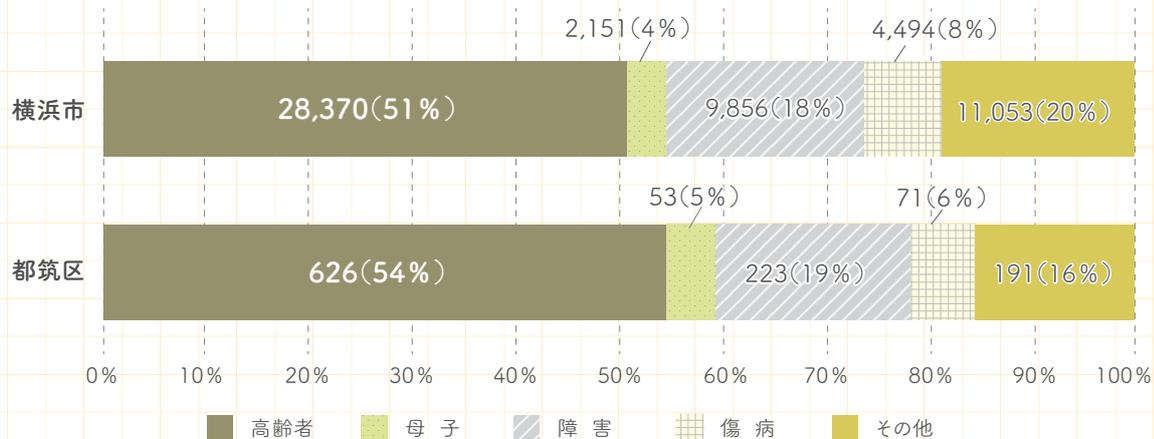
都筑区(外国人総数: 4,770人)			横浜市(外国人総数: 137,507人)		
中国	822	17.2%	中国	48,455	35.2%
ベトナム	598	12.5%	ベトナム	14,784	10.8%
韓国	553	11.6%	韓国	12,471	9.1%
フィリピン	469	9.8%	ネパール	10,393	7.6%
ドイツ	379	7.9%	フィリピン	9,806	7.1%

出典：統計情報ポータルサイト・住民基本台帳

(8) 生活困窮・生活保護

人口100人あたりの保護受給者数の割合(保護率)は市内18区中18位です。世帯類型別被保護世帯数の内訳は横浜市と同様に、高齢者が多い値を示しています。

世帯類型別被保護世帯数内訳(2025年3月末時点)



出典：横浜市統計書 第14章 社会福祉

(9) 健康づくり

平均自立期間(※)は男性が81.85年、女性が85.37年となっており、どちらも横浜市平均より長い結果になっています。

横浜市と都筑区の平均自立期間(2020年～2022年の平均値)と平均寿命(2022年)

	男		女	
	平均自立期間	平均寿命	平均自立期間	平均寿命
横浜市	80.00年	81.34年	83.89年	87.35年
都筑区	81.85年	82.85年	85.37年	88.33年

※平均自立期間:「日常生活に介護を要しない期間の平均」、このあと何年自立した生活ができるかを示した物で、健康寿命の考え方のひとつ。

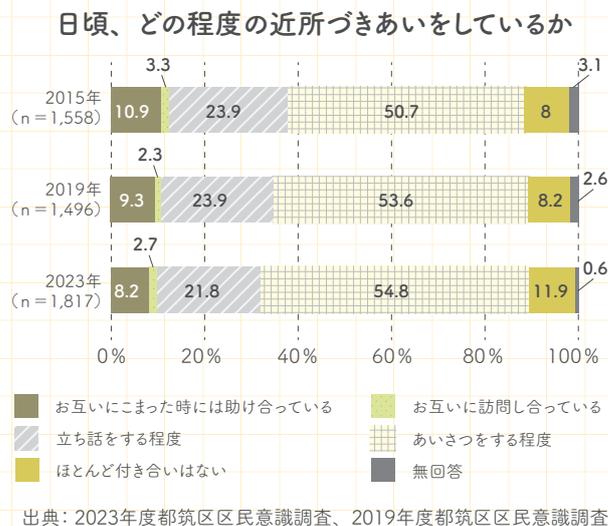
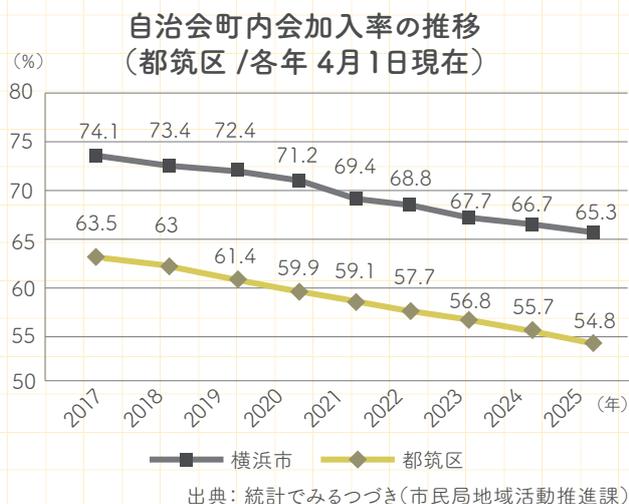
出典：健康福祉局健康推進課



平均自立期間を延ばしていきましょう!

(10) 隣近所とのつきあい

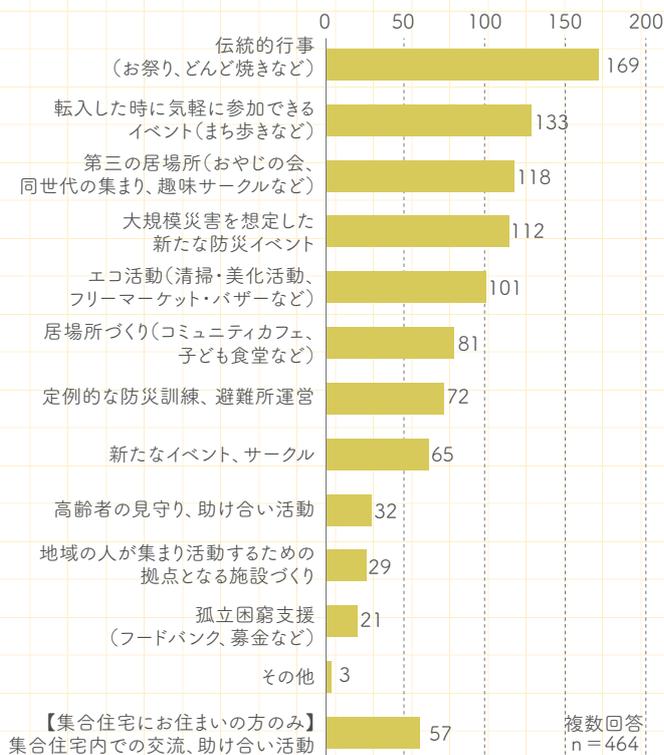
自治会・町内会の加入率は低下傾向で、日頃の近所づきあいの程度としては、「あいさつをする程度」がゆるやかに増加傾向にあります。



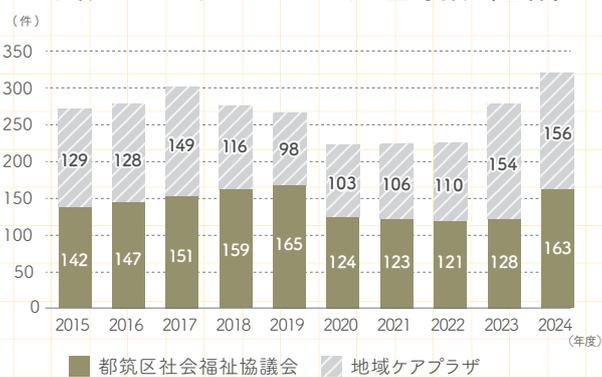
(11) 地域活動

「伝統的行事」に加え、「気軽に参加できるイベント」へのニーズが高いです。また、新型コロナウイルス感染症の影響で減少していたボランティア登録数は再び増加しています。

どのような地域活動があれば、参加したいか



都筑区社会福祉協議会・地域ケアプラザのボランティア登録数(団体)



出典：地域ケアプラザ四半期報告
区社会福祉協議会実績報告

出典：「地域活動や人とのつながりづくり」に関するアンケート調査
(2023年2月公表 都筑区内への転入の手続きに来た人に対してアンケートを実施)

2 関係者・関係団体へのヒアリング

2024年9月から11月に、「日々の活動を通じて感じる課題」や「2030年に目指す都筑区の姿」についてヒアリングを行いました。

民生委員・児童委員

- ・誰もが当たり前の毎日を過ごせるようにしたい。
- ・孤立させない地域にしたい。
- ・身近な関係団体(高齢、障害関係等)と連携できる仕組みが必要。

青少年指導員

- ・高校生になると地域で顔が見えなくなる。
- ・地域と中学生・高校生を結びイベントがあったらよいと思う。
- ・青少年がお手伝いとしてではなく、「楽しく、前向きに」主体的にボランティアに参加できる機会が必要。

地区社協分科会

- ・上手に世代交代をしていくにはどうしたらよいか。
- ・困りごとを話せる地域、困りごとを他人ごとにしらない地域にしていく。
- ・見守りが進んでいるまちになってほしい。

老人クラブ

- ・どの地域にも老人クラブがあり、活性化されると良い。
- ・老人クラブの活動についてもっと知ってもらえると良い。
- ・70代前半の方に入会してほしい。

都筑区 子育て支援センター Popola

- ・転出入が多く、核家族が多いため、頼れる人がいない。
- ・迷惑をかけたくないという思いを持っており、弱みが出せない人が多い。
- ・子どもを地域で育て、見守る意識が必要。

ボランティア分科会

- ・隣の人のつながりが少ない。
- ・枠を限定せずに知り合える場があると良い。
- ・活動を発信していくことが大切。
- ・活動場所の確保。公共施設をもっと使いやすくしてほしい。

主任児童委員

- ・表に出てこない方へのアプローチが難しい。
- ・子どもを真ん中において、地域のみんなで子どもたちの課題を解決したい。
- ・子どもと高齢者が交流できる仕組みがあると良い。

自立支援協議会

- ・障害のある当事者が安心して地域とつながれるよう、支援者が橋渡しできると良い。
- ・障害理解やメンタルヘルスに関して、子どもたちへの普及啓発を進めたい。
- ・見えないSOSをキャッチするために、地域の民生委員やケアプラザ等とつながり、情報共有できると良い。

中学生・高校生

- ・自分でボランティア活動を選べるのが良かった。
- ・ボランティアでは、普段関わる機会のあまりない人と、関わることができるのが楽しい。
- ・横断歩道での見守り等やってみたくけど、どこに連絡したらいいかわからない。

保健活動推進員

- ・単に健康づくりを進めるのではなく、人とのつながり(出会い、理解していく)を大切にしている。
- ・他団体とのコラボレーションにより、あらゆる年代の方に健康づくりの活動に参加してほしい。

よこはま北部 ユースプラザ

- ・就労でも進学でもない居場所が求められている。
- ・無償や有償のボランティア活動先を開拓できると良い。
- ・家庭内不和、虐待、国籍、労働問題、多重債務等、複雑に課題が絡んでいる方が多い。

たくさんの
ご意見を
いただきました



3 都筑区地域福祉保健計画推進委員会

都筑区地域福祉保健計画推進委員会は、福祉、保健、医療その他各種団体の代表や学識経験者から構成されています。計画の策定・推進・評価等に関して意見交換をする場として位置づけられています。

(1) 開催内容

2024年度

● 12月

- ・ 第4期計画の振り返り報告
- ・ 第5期計画骨子案についての意見交換
子どもの意見反映、若い世代・外国にルーツのある方への計画周知、転入する方とのつながり等、多数の意見が出ました。



2025年度

● 7月

- ・ 第5期計画素案についての意見交換
区民意見募集や多様性に関連する文言の掲載について意見交換を行いました。



● 8月
(書面)

- ・ 第5期計画素案の最終確認

● 11月

- ・ 第5期計画素案に関する区民意見募集結果の共有
- ・ 第5期計画に関する最終意見交換



(2) 都筑区地域福祉保健計画推進委員 詳細は 36ページ参照

36ページをご覧ください。

4 都筑区内15地区での話し合い (地域懇談会等)で出た意見

詳細は 23～26ページ参照

「第5章 地区別計画の推進と振り返り」(23～26ページ)をご覧ください。

5 区民意見募集

計画の策定に、区民の皆さんや都筑区に関わるあらゆる方々の意見を反映するために、素案を公表し、意見募集を行いました。

(1) 応募期間

2025年10月1日～10月31日

(2) 募集方法

インターネット回答、電子メール、郵便(専用はがきや封書)、FAX

(3) 素案の種類(作成した媒体)

全体版、概要版、やさしい概要版、英語版

(4) 周知方法

区ホームページ及び広報よこはまへの掲載、関係機関での配布・配架、関係団体への説明、SNS等での配信

(5) 実施結果

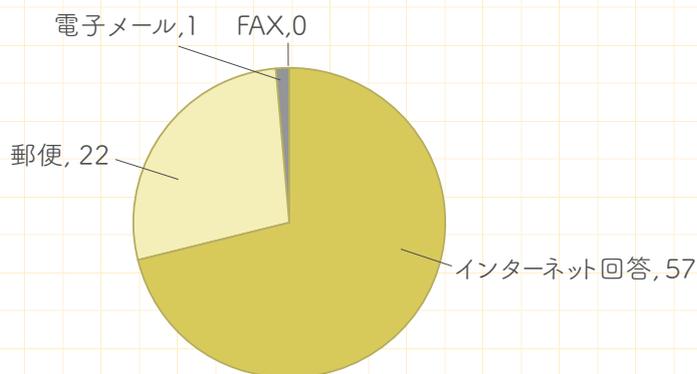
◆回答人数・件数

80名100件

※1名の回答に複数の要素が含まれている場合は、分割して計上しています。

◆回答手段別

回答手段	人数
インターネット回答	57
郵便	22
電子メール	1
FAX	0
総計	80



計画の文言や表現への意見		計画推進やその他に関する意見	
総意見数	26件	総意見数	74件
・提案件数	15件	・計画に含まれているもの	46件
└ 計画に反映した件数	13件	・今後の検討とするもの	21件
・その他の意見(感想等)	11件	・その他の意見	7件

ご協力
ありがとうございました。



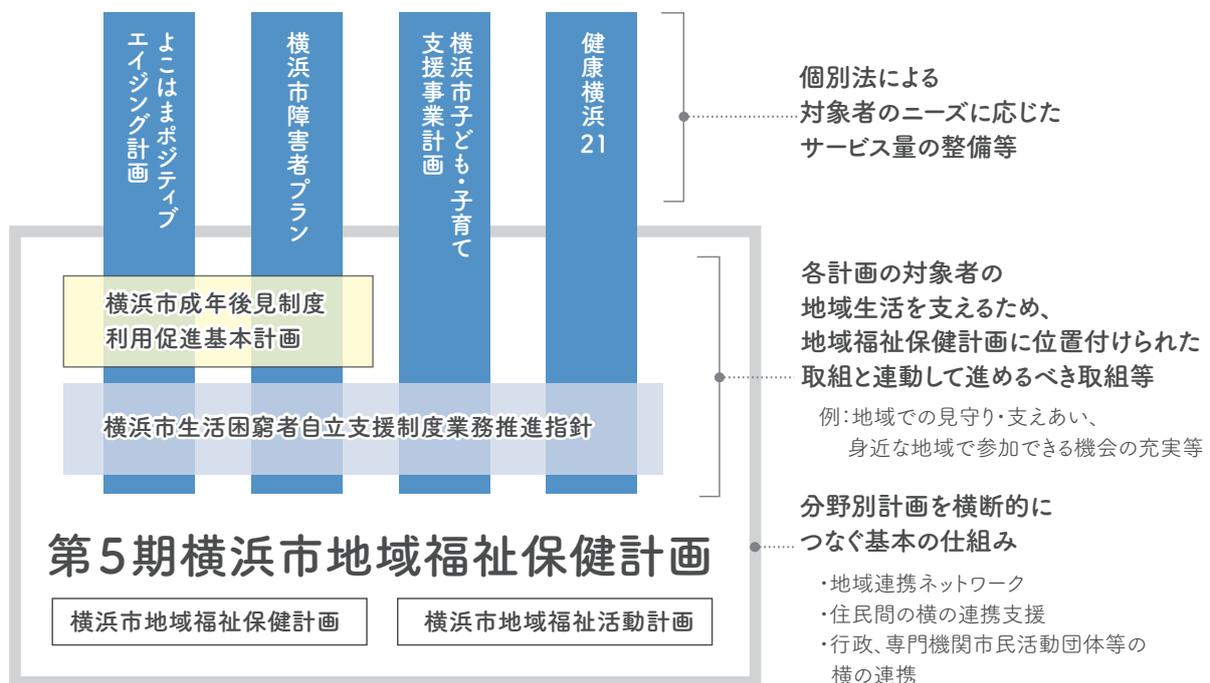
参考

地域福祉保健計画の位置づけ

横浜市では、福祉保健の分野別の計画を策定しています。

地域福祉保健計画は、地域の視点から分野別計画に共通する理念や方針、地域における取組の方向性等を明示し、対象者全体の地域生活の充実を図ることを目指しています。

また、分野別計画で示している対象者の地域生活を支えるための事業や支援については、地域福祉保健計画と連動して取り組んでいきます。



社会福祉法第107条で「努力義務」となっている「地域福祉計画」の策定

地域で暮らす人々が生活上の課題を抱えながらも、互いにつながり、支えあうことで、一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともにつくっていくことのできる「地域共生社会」の実現に向けた取組が進められています。

地域共生社会の実現に向けて、2018年（平成30年）施行の改正社会福祉法により、「任意」であった地域福祉計画の策定が「努力義務」となりました。

都筑区地域福祉保健計画推進委員名簿(2024年度・2025年度)

	委員名	所 属
1	大野 和子	都筑区保健活動推進委員会 会長
2	木村 博子	都筑区主任児童委員連絡会 代表
3	桑原 正盈	都筑区老人クラブ連合会 会長
4	小泉 雅二	都筑区社会福祉協議会 ボランティア・市民活動等分科会 会長
5	小林 達夫	都筑区民生委員児童委員協議会 会長
6	小林 雅子	都筑区医師会 理事
7	坂田 信子	都筑区障害児・者福祉団体連絡協議会 会長
8	佐藤 洋子	NPO 法人こども応援ネットワーク 理事長 (都筑区子育て支援センター Popola 運営法人)
9	志田 政明	都筑区青少年指導員連絡協議会 会長
10	高橋 美都子	都筑区小学校長会地域福祉保健関係担当 横浜市立茅ヶ崎小学校 校長
11	名和田 是彦	法政大学法学部 教授(学識経験者)
12	林田 育美	都筑多文化・青少年交流プラザ(つづきMYプラザ) 館長
13	堀内 哲也	つづき地域活動ホームくさぶえ 統括施設長
14	堀越 淳子	都筑区食生活等改善推進委員会 会長
15	増田 友昭 (2024年度) 小嶋 貴之 (2025年度)	都筑区中学校長会地域福祉保健関係担当 横浜市立中川中学校 校長
16	宮川 智行 (2024年度) 河野 伸二郎 (2025年度)	都筑区歯科医師会 会長
17	村田 輝雄	都筑区社会福祉協議会 会長
18	吉野 富雄	都筑区連合町内会自治会 会長



問い合わせ先

都筑区役所 福祉保健課事業企画担当

☎ 電話:045-948-2344 FAX:045-948-2354

✉ メール:tz-tifuku@city.yokohama.lg.jp

社会福祉法人 横浜市都筑区社会福祉協議会

☎ 電話:045-943-4058 FAX:045-943-1863

✉ メール:info@tuzuki-shakyo.jp